

県医活動報告

第16回男女共同参画フォーラム

テーマ「医療人を育む一歩から～医師の多様な働き方について～」

日時 令和4年4月23日(土) 13時30分

場所 ホテル日航大分オアシスタワー (Web配信)

日本医師会男女共同参画委員会委員
大分県医師会男女共同参画委員会委員
貞 永 明 美



河野幸治大分県医師会副会長の開会宣言に始まり、主催者である中川日本医師会会長、開催担当県である近藤大分県医師会会長の挨拶後、来賓の広瀬勝貞大分県知事より祝辞が述べられた。

【基調講演1】

「日本眼科医会の男女共同参画一医会活動に女性がかかわる意義」と題し、白根雅子日本眼科医会会長が講演。女性が4割を越え、若年層では半数近い眼科医における女性医師の能力発揮、活躍できる環境整備が急務で、眼科医会では役員、代議員、委員会の委員の女性の参画を30%以上にする目標に取り組んでいる事とともに、学会と協力し女性のキャリアアップできる環境の提供とともに性差や立場を越えた「医療の発展」「医師のwellbeing」を両立させる努力がもたらされている事より「男女共同参画」を「ダイバーシティ推進」へと取り組みを始めた事を話された。

【基調講演2】

「悠遠の旦所共同参画苦悩する心臓血管外科医」と題し大分大学心臓血管外科宮本伸二教授が講演。心臓血管外科は急患も多く、間違いなく現在でもブラック診療科。家族と過ごす時間もなく、女性の割合は6.2%。外科系学会の女性参画比率も低い。手術よりも術後管理に要する時間が負担とされている事よりコミュニケーションアプリ「JOIN」の導入を進め施設間での情報共有し、診療科内、多職種との働き方改革を進めているなど話された。

【報告】

報告では越智日本医師会男女共同参画委員会委員長より活動報告が行なわれた。女性医師支援からスタートしたが、現在では男女共に働きやすい環境をつくる事に主眼を置き活動している。まだまだ代議員の女性比率は低いですが、女性医師の支援が医師不足、医師の偏在の是正に繋がり多様な働き方の実現する環境、ひいては医療の安心・安全な提供につながると報告。

神村常任理事は日本医師会女性医師支援センター事業の現状を報告。女性医師バンクには3000名が登録、男性、シニアの相談も増えている事を紹介。今年4月よりの育児・介護休業の取得条件の緩和に触れ、男性の取得を推進する環境整備は医療機関の責務である事を話された。

【シンポジウム】

はじめに漆野恵子医師 {中津市民病院心臓血管外科} が、20年間の様々な経験を思いのこもった肅々とした語りで語られた。

外科系に女性医師が少ない現状の中、周囲の理解と協力のもと出産、子育てができた事。幼い2人の子供を連れてドイツに留学。自身の闘病後、再度ドイツで医師免許獲得、紆余曲折あるも今心臓の術野に立ち続けている。男女を意識せず、ただ自分の生きやすいベストポジションを探してきたというお話は感動を呼んだ

次に松浦恵子大分大学学長匿名補佐・男女共同参画推進室長が大学での活動、医師会との連携、県全体への女性医師支援の波及を目指したこれまでの取り組みを紹介。今年度より県・県医師会・大学病院が三位一体となり県下病院での女性医師復帰支援プログラムを診療科ごとに作成するように依頼したことを報告。また大学では医学部付属病院の「女性医療人キャリア支援センター」が医学部リーダーを対象としたアンコンシャス・バイアス研修、女性医師交流会、医療人パパの会などの活動報告が行われた。

小野宏大分県福祉保健部医療政策課長は、県として医師の長時間労働対策のための病院に対するヒアリング、地域医療介護総合確保基金を活用した勤務医の労働時間短縮に向けた体制整備事業を実施している事を紹介した。女性医師支援としては女性医師短時間正規雇用支援事業、院内保育への支援、女性医師キャリア支援センター事業への支援を報告した。

総合討論では参加者よりキャリア形成の在り方、特に小さい規模の病院での取り組みが難しい事など、現場の声が早速あがり有意義なものとなった。特に男性医師の意識改革の取り組みはずっと根底にある問題で、今村日医副会長は「日本医師会が医学生向けに発行している「ドクターゼ」は男女を問わず多様な働き方が紹介され、啓発とともに、その活用をもとめる」とコメントされた。

最後に次期担当県である三重県医師会の二井会長が挨拶後、藤本大分県医師会副会長が閉会の辞を述べた。

コロナ禍の中、2年延期されたやくフォーラムであったが当日会場に51名、WEB参加も約200名と多くの参加があった。